

あらかわ 区議会だより

No.235

平成28年4月17日

平成27年度定例会・2月会議号



平成27年「尾久の原公園シダレザクラのある風景写真コンクール」最優秀作品
～毎年どなたでもコンクールに応募できます～

お も な 内 容

2ページ	議会活動 会議の概要	12ページ	視察レポート	16ページ	予算審査の概要 主な総括質疑
3ページ	区政のここをきく	14ページ	区長の施政方針説明 意見書提出 採択した請願・陳情	17ページ	予算に対する討論
9ページ	議案の審議結果	15ページ	決議	20ページ	視察受入報告
10ページ	委員会活動の報告				

議会活動

平成28年1月15日～平成28年3月15日

1月19日～20日
議会運営委員会（行政視察）

1月25日～27日
建設環境委員会（行政視察）

1月28日
震災対策調査特別委員会

1月28日～29日
観光・文化推進調査特別委員会（行政視察）

2月1日
議会運営委員会

2月2日
総務企画委員会
福祉・区民生活委員会

2月3日
文教・子育て支援委員会
建設環境委員会

2月12日
議会運営委員会

2月15日
本会議

2月16日
議会運営委員会

2月17日
本会議

2月19日
総務企画委員会
福祉・区民生活委員会

2月22日
文教・子育て支援委員会
建設環境委員会

2月25・26・29日
3月1・3・4・7・8日
予算に関する特別委員会

3月14日
議会運営委員会

3月15日
本会議

太字は本会議期間中です。



2月会議の概要

～平成28年度一般会計予算などを可決～

平成27年度荒川区議会定例会・2月会議は、2月15日から3月15日までの30日間の会議期間で開催されました。

区長の平成28年施政方針説明の後、本会議では、8人の議員から区政全般にわたり一般質問が行われま

した（要旨は3～8ページに掲載しています）。

2月会議では、議案37件が提出されました（議案の審議結果は9ページに掲載しています）。このうち平成28年度予算4件は、予算に関する特別委員会を設置して審査を行いました。

平成28年度 予算の概要

年度区分 会計区分	平成28年度 予算額	平成27年度 予算額	増減	増減率 (%)	
一般会計	969億6,000万円	912億6,000万円	57億円	6.2	
特別会計	国民健康保険事業	294億2,500万円	289億9,600万円	4億2,900万円	1.5
	後期高齢者療養	45億1,800万円	45億5,100万円	△3,300万円	△0.7
	介護保険事業	164億8,500万円	158億5,700万円	6億2,800万円	4.0
計	1,473億8,800万円	1,406億6,400万円	67億2,400万円	4.8	



▲2月会議の様子

区政のここをきく

一般質問要旨



2025年問題と今後の放課後児童事業の取り組みを問う

志村博司（自民党）

団塊世代が高齢期を迎える2025年問題とそれ以降に生じるであろう問題について問う

問 2025年問題とその後の社会では、高齢者数が増加し医療や介護が必要となる。将来を見据えた健康寿命延伸、介護予防推進に対し区の見解を問う。また、介護予防の取り組み、筋力向上等の観点も含めて、老人福祉センターのあり方を問う。

答 区では糖尿病対策を重点目標に掲げ、若い世代からの介護予防や健康づくりのために積極的に取り組んでいる。老人福祉センターは、運動系のプログラムを実施する等、より積極的に介護予防や健康づくりに取り組むための拠点へと転換を図る。

問 区内企業が安定した経営を継続していくためには、企業経営の後継者づくり及び次代を担う従業員の確保と企業の技術継承を含めた従業員の育成が不可欠である。この2本柱に関して、区の認識と今後の施策の推進について問う。

答 後継者育成は、MACCプロジェクトで積極的に取り組んでいる。従業員の確保は荒川工業高校を対象に企業見学バスツアーを実施した。また「デュアルシステム」の受入環境を整備する。効果的に人材育成を図るよう関係機関と連携を強める。

問 建物の老朽化や入居者の高齢化が進行するマンションの適正な維持・管理に向け、区はどのように取り組んでいくのか。また、喫緊の課題である空き家対策に関する今後の進め方を問う。

答 区では、セミナーの開催や専門家派遣等、マンションが抱える諸問題に取り組んできた。国や都の動向を注視し、更に取り組みを支援していく。空き家対策は、区独自の条例制定を検討し、来年度には全額助成事業を開始したいと考えている。

今後の放課後児童事業の取り組みを問う

問 全ての児童が健やかに成長していくためには、放課後子ども総合プランは良い事業と考える。今後の事業の進め方を問う。

答 区では、放課後子ども教室を28年度に全校で開設する。また、放課後子ども教室事業と学童クラブ事業を一体型で整備する放課後子ども総合プランを早期に全小学校で実施できるよう取り組む。

問 区は、総合プラン事業をより充実したものにしていきたいため、どのような取り組みをしていくのか。

答 子ども達の意見を取り入れる仕組みづくり等、興味や関心を高める事業の充実に努める。また、事業者の履行状況を評価する取り組みを開始する。

問 学童クラブの夏休み等の長期休業中における開所時間を、小学校の登校時間に合わせる事が合理的だと考えるが、区の見解を問う。

答 必要がある場合には、登校時間と同じ時間から学童クラブの利用ができるよう早急に整備を図る。

その他の質問項目

- 平成28年度予算について
- 心のケア対策について
- オリンピック・パラリンピック教育の取り組みについて



▲学童クラブの様子



**当面する教育・保育の課題
と安心して住み続けられる
住宅・街づくりを問う**

相馬 堅一 (共産党)

当面する教育・保育の課題を問う

問 教室不足への対策だけでなく、校庭・運動場等の確保策を求める。特に、汐入東小学校、第三瑞光小学校への対策を問う。

答 汐入東小学校の校庭は、汐入公園等を使用することで場所を確保している。第三瑞光小学校は、増設校舎の屋上に人工芝の運動場を整備し、また、増設校舎4階は児童の活動場所を想定している。他の小中学校も、既存の設備等を創意工夫して、児童生徒が十分に活動できる環境の整備に努める。

問 保育園に入園できずに仕事を続けられない等、深刻な事態にしてはならない。特別対策として、待機児保育園の実施等、思い切った対策を求める。

答 待機児童の解消策は、区有施設の活用や民間ビル等の空きスペース活用等、保育定員拡大に努めてきた。本年4月の申込者数の増加を踏まえ、更なる保育園の早期開設に向け、事業者と調整を進めると共に、既存保育園へ保育士の増員を行い、定員拡大を図る等の対策を既に行っている。

問 ゼロ歳児の保育時間の必要な時間延長を実施できるように求める。

答 近年、保育ニーズの多様化が進んできていることから、ゼロ歳児の保育時間延長について、既に事業者と調整を進めている。

安心して住み続けられる住宅・街づくりを目指す

問 介護施設不足、公的賃貸住宅不足の一方で、日本の持ち家優先の住宅政策により空き家が増えている。このミスマッチを解決することが必要である。低廉な家賃の公共賃貸住宅の建築を国・都に求めること。また、区へも検討を求める。

答 都営住宅に、より必要性の高い方が優先的に入居できるよう都に要請していく。併せて、住み替えを促進する仕組みを要請する。国に対しては公営住宅制度の充実を要請する。このほか、区民住宅の一部を用途変更し、密集事業の低所得者向

け従前居住者用住宅として使用している。

問 区は空き家を借り上げて保全すること。また、低廉な介護付き住宅や高齢者住み替え家賃助成事業の受け皿住宅等として活用する方式をプロジェクトチームも立ち上げて検討すること。

答 区内では、安全面等で危険な老朽空き家の除却に取り組んでいる。危険でない場合にも、介護が必要な高齢者向けの住宅等に転用していくには、現行法規への適合化等、様々な課題がある。区は、積極的に高齢者の住まいともなる介護施設の整備・充実に取り組んでいく。

問 高齢者住み替え家賃助成制度を改善して、転宅条件や所得制限を緩和するのはどうか。

答 区では、助成事業の際、所得が基準以下であること等、必要最小限の要件を設定している。

その他の質問項目

- 区長として立憲主義を守る認識を求める
- 新年度予算編成について
- J R 南千住駅北口開設を具体化すること



▲第三瑞光小学校の校庭



**児童虐待防止対策と水辺に
親しむ尾久の街づくりを問う**

菊地 秀信 (公明党)

児童虐待防止対策を問う

問 保護者の生い立ちや成育歴によって生まれる虐待発生の要因に対しては、他者を思いやる気持ちを育てていく必要がある。いじめ防止対策としての心の教育に加え、子どもが大人になり、親になった時のための児童虐待防止対策としても、生徒が命の尊さを感じる誕生学の実施を要望する。

答 誕生学は、児童生徒が人の誕生や成長、命の尊さを実感すると共に、人間関係等について見直す大変貴重な機会になると認識している。教育委員会は、今後実施に向け、校長会と相談しながら、鋭意検討していく。

問 荒川区は子育て世代が増加しており、父親の留守が多いと、母親に育児の負担が偏る養育環境のリスク要因が心配される。母親を孤立させないため、父親の育児参加率向上に向け、父親のための育児セミナーの開催を求めるが、区の見解を問う。

答 区は、両親学級や父親も一緒に参加できる母親学級を実施している。また、「あらかわパパスクール」等を実施しており、今後も自主的な地域の子育て活動へと繋げる取り組みを行っていく。更に、保健師等による支援、ヘルパーやボランティアの派遣を行い、育児中の孤立感等の解消に努める。

水辺に親しむ尾久の街づくりを問う

問 あらかわ遊園は、区の子育て支援施設としてだけでなく、尾久地域のにぎわい創出の重要な拠点となっている。地域の活性化を図るためには、子育て世代からシニア層にも喜ばれる新たなイベントを開催するべきと考えるが、区の見解を問う。

答 あらかわ遊園周辺のにぎわい創出のためには、水辺の環境を上手に活用したイベントの実施が効果的だと考える。隅田川沿いテラスを活用した新たなイベントを実施する予定である。その際、特別区全国連携プロジェクトとの連携を検討する。



隅田川テラス

問 尾久八幡中学校から尾久の原公園までの間は、現在、川を眺めながら移動することができない。より多くの区民が水辺を訪れるよう、宮前公園から尾久の原公園に至る親水テラスをスーパー堤防に先行して整備するべきと考えるがどうか。

答 宮前公園から尾久の原公園に至る区間について、スーパー堤防整備に時間を要する箇所はテラ

ス整備を先行するよう都に要請する。

その他の質問項目

- 平成28年度予算編成について
- 教育改革の推進について



二極化している社会状況の認識と対応及び区施設の空き家である旧真土小を問う

清水啓史 (民主・市民)

二極化している社会状況の認識と対応を問う

問 子どもの相対的貧困率、若者世代の雇用状況、高齢者の貧困状態等、今、様々なところで格差が広がり、二極化している。誰もが共に生きる「共生社会」のため、格差是正に向け、荒川区は各分野において施策に取り組んでいるが、住民にとって最も身近な基礎自治体として、現状の社会認識と今後の取り組みを問う。

答 非正規雇用が増加する等、経済的な格差の拡大に大変危機感を募らせている。区では、格差が親から子へ伝わる負の連鎖を断ち切ることに重点を置き、「子どもの貧困・社会排除問題」に取り組んでいる。保健師による乳児家庭の全戸訪問や「居場所づくり事業」等、様々な支援策を実施し、その充実を図ってきた。特に、就労支援は、区内企業見学バスツアー等を実施している。生活困窮者への相談窓口体制の強化等、更に施策を展開していく。今後も、きめ細やかな対応を全力で行う。

区施設の空き家である旧真土小について問う

問 平成25年の予算に関する特別委員会において「旧真土小学校の建物は、区が所有する空き家ではないか」と指摘した。暫定利用を終了した時期に、経費をかけて建物の安全措置をし、現在も清掃と見回り、センサーライトの設置等、今後利用せずに解体する建物に毎年費用をかけているという状況である。そこで、旧真土小について現在の考え方、近隣との調整といつを目途に判断するのか、区の見解を問う。

答 旧真土小学校は、平成3年に閉校後、24年度末をもって暫定利用を終了した。区はこれまで、

フェンス設置や機械警備の導入と清掃、見回りを行う等、適切に閉鎖管理を行ってきた。区民の財産の保全と地域の安全という、相反する課題を整理しなければならない難しい問題だが、現在、建物の解体に向けて鋭意検討を行っている。区議会、区民の意見を聞きながら、具体的な進め方を決定していきたい。

その他の質問項目

- コミュニティバスさくらの運転手等に関する勤務状況把握について
- 区内中小企業に対する正社員雇用促進支援について
- 給付金事業について
- 学校における安全管理について
- 学校教育充実策のPRについて



▲旧真土小学校



災害対策とアレルギー対策を問う

藤澤志光 (改革の会)

災害対策を問う

問 異常気象が常態化している。大規模水害の浸水想定もされているが、現在、区民の認識は十分ではない。区民へどう周知するのか。また、集中豪雨による浸水被害について区の想定と対策を問う。

答 区は、都や他区等と連携し避難対策や普及啓発対策等に取り組んでいる。周知には、新たなハザードマップの全戸配布や防災アプリ作成等を予定している。時間最大114ミリの降雨の場合、区内一部地域で1メートルの浸水が予想される。区民にはハザードマップ、区報等で周知し、また、

下水道局に対し、下水道の整備拡充を働きかける。

問 夜間・早朝に災害が発生した場合、区はどのような対応をとるのか。職員の家庭安全対策はどう行うのか。また、レスキュー隊の設置と訓練、瓦礫からの人命確保について問う。さらに、感震ブレーカー設置の普及、初期消火の体制を問う。

答 大災害発生の場合、職員は職場に参集し、災害対策業務へ従事する。職員へも家庭での安全対策の周知を行っている。防災区民組織やレスキュー隊は、応急救護訓練等を実施している。密集地域では、初期消火や人命救助活動に必要な資機材を配備する。また、消防署等による迅速消火の体制は整っており、感震ブレーカーの周知も努める。

問 不燃化特区事業の優遇措置と特定空家特措法とで、取り扱いが異なると特区内外で格差が生じると考えるが、区の見解を問う。また、建て替え後の税も差が生じるが、区はどう対応するのか。

答 区は、不燃化特区内で危険な老朽建築物の除却を進めるための財源として、都の補助を受けている。来年度は、不燃化特区外でも除却費用の全額助成事業を予定している。特区内では、国等に対し、除却後の固定資産税の減免を要望している。



◀様々な防災用品

アレルギー対策を問う

問 幼児期にアレルギー食品を避けると、アレルギー症状の発症、重症化が言われているが、妊娠中からアレルギー食品を避ける母親がいる。適切な指導をすべきと考えるが、区の対応を問う。

答 区は、離乳食教室等で資料を用いて説明しているほか、アレルギー予防講演会を年3回実施している。また、区内保育園の栄養士等に講習会を実施し、普及啓発等に努めている。今後も関係機関と連携して、アレルギー対策を進めていく。

その他の質問項目

- 公文書管理について



更なる子育てしやすい環境
づくりと俳句のまち・あ
らかわの推進を問う

菅谷元昭 (自民党)

更なる子育てしやすい環境づくりを問う

問 幼児教育を充実することは、学力や倫理観の向上等を通じて、将来の経済成長や税収増等にも貢献する未来への先行投資と言える。「小1プロブレム」は全国的な問題であり、保育園・幼稚園から小学校への円滑な接続が必要である。区が今年度から策定している「就学前教育プログラム」の活用が重要となると考えるが、区の見解を問う。

答 「(仮称) 荒川区就学前教育プログラム」は、間もなく完成する見込みで、発達と学びの連続性を踏まえた就学前教育の充実を図り、「小1プロブレム」にも対応する考えである。完成後は、区内全ての保育者と小学校に配布し、共通理解を深め、指導計画等の参考としてもらい、区施設等にも置き、保育・教育の更なる質の向上に努める。

問 貧困の連鎖を解消するために、区の子どもの居場所づくり事業は、各地域に広げるべきと考える。実施団体等への支援拡充を図ると共に、区関連施設の活用で場所の確保をしてはどうか。

答 区では、今年度から団体への助成を実施している。今後、区施設活用の可能性や補助条件の見直し、大学等との連携による人材確保等を検討する。

問 都電営業所を視察した際、都電の利用者とあらかわ遊園の来場者を増やす工夫を都に強く要望した。都電車庫等の周辺資源を活用し、旧小台橋小学校跡地を含めた遊園全体の魅力を高めるべきと考えるが、区の見解を問う。

答 昨年8月、事業推進協議会を立ち上げ、遊園のあり方等について幅広く検討している。今後、園路の整備も予定している。また、旧小台橋小学校跡地活用のための測量を実施する予定である。遊園がより魅力ある施設となるよう、議会の意見を聞きながら、鋭意検討していく。

俳句のまち・あらかわの推進を問う

問 「俳都松山」と言われる松山市を視察し、区の

俳句事業を更に充実させ、日常的に俳句に親しむ機会を増やす必要があると強く感じた。「俳句のまち・あらかわ」を世界に広めるため、英語で俳句を作る取り組みや区立図書館に国内外の俳句関連資料を収集する等してはどうか。今後の区の俳句事業の展開を問う。

答 区では、俳句の裾野を広げる取り組みを行っている。加えて、俳句会、芭蕉の大橋渡り等、文化と観光の両面から取り組んでいる。今後は、PR映像の制作、中学生による俳句選手権等、取り組みを進めていく。また、英語版俳句手帳の作成等、国際俳句振興にも取り組み、「ゆいの森あらかわ」での俳句関連書籍の収集等の充実も図っていく。

その他の質問項目

- 障がい者の自立への支援について
- 特別支援教育について
- ふれあい館の充実について
- オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みについて



▲南千住駅西口ロータリーの松尾芭蕉像



女子医大東医療センターの
区内存続と子育て支援及び
子どもの貧困を断ち切るた
めの支援を問う

安部キヨ子 (共産党)

地域に根ざした歴史ある女子医大東医療センターの区内存続を問う

問 病院と足立区の協定締結以後の関係者の動向と区の取り組みの報告を求める。

答 区は、女子医大に対し、移転計画について説明を求め、都に都有地の売却をしないよう要望した。

問 東京都地域医療構想策定にあたって荒川区に

は、中核病院が女子医大のみである。荒川区、足立区の必要ベッド数を確保し、女子医大の区内存続を構想に位置づけるよう都に働きかけること。

答 様々な機会です働きかけているが、女子医大の区内存続は構想に位置づけられる内容ではない。

問 女子医大は地域医療に貢献しており、その代替えはあり得るのか。万一、転出した場合の区民の健康・医療体制を確保する対策はあるのか。

答 移転問題が与える影響は深刻であると認識しており、適時適切に対応する。

子育て支援と子どもの貧困を断ち切るための支援を問う

問 保育園待機児対策として、至誠会第二保育園園舎の活用を図るべきと考えるがどうか。

答 現園舎の敷地は返還予定で、活用は困難である。

問 区の奨学金返済者の実態把握を行い、必要な支援を行うこと。また、給付制奨学金の創設を検討すること。税・保険料滞納にあたって、学資保険の差し押さえをやめること。

答 奨学金の返還は事情により、柔軟な対応を行っている。給付型奨学金の導入は予定していない。また、関係法規に則り、差し押さえを行っている。

問 子どもの医療費無料化を18歳まで行うこと。

答 経済的支援が必要な世帯に対しては、既に助成を行っており、区の単独事業での18歳までの医療費無料化拡大は、現時点では困難と考えている。

その他の質問項目

○指定難病拡大と共に医療費が有料化された方への区の助成を検討すること



▲東京女子医科大学東医療センター



子どもの貧困対策と障害者差別解消法の4月施行について問う

瀬野喜代 (民主・市民)

子どもの貧困対策を問う

問 子どもの貧困対策を検証し、更なる推進体制を求める。また、高校中退者支援の取り組みを問う。

答 区は、関連する全ての分野で総合的に施策を推進してきた。今後も全力で取り組む。高校中退者対策は、中学校で生徒の勤労観、忍耐力等を育成し、高校生活を継続する意欲を高めている。

問 若い女性の貧困に繋がる性暴力防止への取り組みを問う。また、子ども達への周知はどうか。

答 区の婦人相談員が支援に努めている。また、中学校では、保健学習等を通し、指導している。

障害者差別解消法の4月施行に向けて

問 差別事象アンケートとその周知方法を問う。また、差別事象に関しての環境づくりを問う。

答 アンケートを実施し、障がいについて理解してもらうため、施設公開や講演会の実施等、取り組んできた。今後も差別のない社会づくりに努める。

問 障がいのある子もない子も共に育つ学校教育の推進を問う。

答 教員の合理的配慮のもと、障がいのある児童生徒にとって、より生活しやすい教育環境を作る。

その他の質問項目

○電力自由化について



▲子ども村：中高生ホットステーションの様子

議案の審議結果

平成27年度定例会・2月会議

○賛成 ×反対 太字は討論のあったことを示す

議案番号・議案名	会派名・結果 (数字は会派人員)								結果	
	自 民 党	公 明 党	共 産 党	民 主 ・ 市 民	元 気 ク ラ ブ	日 本 創 新 党	改 革 の 会	維 新 の 党		
議員提出議案 (16件)										
第11号	荒川区奨学支援金支給に関する条例	×	×	○	×	○	×	×	×	否決
第12号	荒川区学校給食費の助成に関する条例	×	×	○	×	×	×	×	×	否決
第13号	荒川区小中学校等入学祝い金の交付に関する条例	×	×	○	×	×	×	×	×	否決
第14号	荒川区学童クラブの運営に関する条例の一部を改正する条例	×	×	○	×	○	×	×	×	否決
第15号	荒川区子どもの医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例	×	×	○	×	×	×	×	×	否決
第16号	荒川区ひとり暮らし高齢者入浴券支給条例	×	×	○	×	×	×	×	×	否決
第17号	荒川区高齢者入浴事業の実施に関する条例	×	×	○	×	○	×	×	×	否決
第18号	荒川区高齢者紙おむつ購入費助成条例	×	×	○	×	○	×	×	×	否決
第19号	荒川区生きがい奨励金支給に関する条例	×	×	○	×	×	×	×	×	否決
第20号	荒川区高齢者に係る介護保険料の負担の軽減に関する条例	×	×	○	×	○	×	×	×	否決
第21号	荒川区住宅リフォームの促進及び区内施工業者仕事づくり条例	×	×	○	×	○	×	×	×	否決
第22号	ほう素、ふっ素等に係る暫定排水基準への対応に関する意見書提出について	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第23号	平成28年度予算(公立学校施設整備費)に関する意見書提出について	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第24号	地方公会計の整備促進に係る意見書提出について	○	○	×	○	○	○	○	○	可決
第25号	北朝鮮の弾道ミサイル発射に対する抗議決議について	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
第26号	東京都知事に対し東京女子医科大学東医療センターの足立区移転計画に係る都有地売却を行わないよう求める決議について	○	○	○	○	○	×	○	○	可決
区長提出議案 (21件)										
第41号	荒川区行政不服審査法施行条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第42号	行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第43号	地方公務員法の改正に伴う関係条例の整備に関する条例	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
第44号	荒川区芸術文化振興基金条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第45号	荒川区消費生活センター条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第46号	荒川区建築審査会条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第47号	荒川区廃棄物の処理及び再利用に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第48号	荒川区道路占用料等徴収条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第49号	荒川区立公園条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第50号	荒川区立荒川自然公園条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第51号	平成27年度荒川区一般会計補正予算(第3回)	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第52号	平成28年度荒川区一般会計予算	○	○	×	○	×	×	○	○	可決
第53号	平成28年度荒川区国民健康保険事業特別会計予算	○	○	×	○	×	○	○	○	可決
第54号	平成28年度荒川区後期高齢者医療特別会計予算	○	○	×	○	×	○	○	○	可決
第55号	平成28年度荒川区介護保険事業特別会計予算	○	○	×	○	×	○	○	○	可決
第56号	東京都後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第57号	荒川区国民健康保険条例の一部を改正する条例	○	○	×	○	×	○	○	○	可決
第58号	荒川区指定地域密着型サービスの事業の人員、設備、運営等の基準に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
第59号	荒川区指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営、指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法等の基準に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
第60号	荒川区手数料条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第61号	平成27年度荒川区一般会計補正予算(第4回)	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

委員会活動の報告

議会運営委員会

志村 博司 委員長

1月19日～1月20日

◆行政視察

- ①福岡県宗像市 (19日)
- ②佐賀県 (20日)

2月1日

◆2月会議について

- ①2月会議・初日の開会日について
- ②提出予定案件について 等

2月12日

◆2月会議について

- ①追加議案の提出について
- ②議員提出議案の提出について 等 ほか

2月16日

◆2月会議について

- ①追加議案の提出について
- ②議事日程について 等

3月14日

◆2月会議の最終日について

- ①意見書・決議について
- ②陳情書の受理について 等 ほか



▲佐賀県議会での研修の様子

声の区議会だより

荒川区議会では、目の不自由な方のために、区議会だよりを朗読した「声の区議会だより」を発行しています。平成28年度より、カセットテープ版に加え、新たにダイジーCD版も発行いたします。ご希望の方は、議会事務局までご連絡ください。

内線 3 6 1 6

常任委員会

総務企画委員会

小坂 眞三 委員長

2月2日

◆2月会議提出予定案件について

- ①平成28年度荒川区一般会計予算について
- ②平成27年度荒川区一般会計補正予算(第3回)について 等

◆所管事務事業説明

- (仮称)日暮里地域活性化施設に導入する具体的機能案について 等 ほか

2月19日

◆付託された議案について

- 議案第44号 荒川区芸術文化振興基金条例 等 ほか



◀荒川区文化祭「華道展」の様子

文教・子育て支援委員会

小島 和男 委員長

2月3日

◆区内視察

- 特別支援学級(第四峡田小学校)の状況について

◆委員会付託事項

- 陳情審査 27年度第5号陳情 保育料の現状維持を求める陳情 等 ほか

2月22日

◆付託された議案について

- 議員提出議案第11号 荒川区奨学支援金支給に関する条例 等 ほか



◀第四峡田小学校での研修の様子

特別委員会

福祉・区民生活委員会

吉田 詠子 委員長

2月2日

◆2月会議提出予定案件について

○東京都後期高齢者医療広域連合規約の一部変更について 等

◆所管事務事業説明

○臨時福祉給付金等の実施について 等

2月19日

◆付託された議案について

○議案第58号 荒川区指定地域密着型サービスの事業の人員、設備、運営等の基準に関する条例の一部を改正する条例 等 ほか



▲区内の地域密着型サービス事業所

震災対策調査特別委員会

小林 行男 委員長

1月28日

◆調査研究事項

- ①「あらBOSAI（あら坊祭）2016」（防災運動会）の実施について
- ②大規模水害時における対策の視点及び緊急避難に関する東京都との覚書の締結について
- ③荒川区防災アプリの作成及び配布について

◆行政視察の集約について



▲あらBOSAIの様子

建設環境委員会

若林 清子 委員長

1月25日～1月27日

◆行政視察

○広島県福山市 ・自転車の安全に関する施策及び自転車マップについて（26日） 等

2月3日

◆2月会議提出予定案件について

○平成28年度荒川区一般会計予算について【建設環境委員会関係】 等 ほか

2月22日

◆付託された議案について

○議案第46号 荒川区建築審査会条例の一部を改正する条例 等 ほか



▲広島県福山市での研修の様子

観光・文化推進調査特別委員会

菅谷 元昭 委員長

1月28日～1月29日

◆行政視察

- 愛媛県松山市
 - ・俳都松山宣言について（28日）
 - ・松山市立子規記念博物館について（29日）



▲愛媛県松山市での研修の様子

視察レポート

～各委員会が実施した行政視察報告～

議会運営委員会

視察日・視察都市	視 察 事 項
1月19日 福岡県宗像市	・宗像市議会の議会運営、委員会運営について
1月20日 佐賀県	・佐賀県議会の議会運営、委員会運営について ・議会活性化の取り組みについて（ICTの活用等）

〈1日目〉福岡県宗像市（宗像市役所）

○調査項目

- ① 請願・陳情について
- ② 予算決算の審査方法について
- ③ 議会改革調査特別委員会について
- ④ 議会放映システムについて
- ⑤ 行政視察報告書について
- ⑥ 電子表決について 等

〈2日目〉佐賀県（佐賀県庁）

○調査項目

- ① 本会議について
- ② 委員会の設置状況について
- ③ 議会運営委員会について
- ④ 議員提出（政策）条例の状況について
- ⑤ 議会広報の状況について
- ⑥ 議会中継の状況について 等



▲福岡県宗像市での研修の様子



▲佐賀県議会本会議場

建設環境委員会

視察日・視察都市	視 察 事 項
1月26日 広島県福山市	・自転車の安全に関する施策及び自転車マップについて
1月27日 広島県福山市	・鞆の浦の景観について

〈1日目〉広島県福山市（福山市役所）

○調査項目

- ① 自転車走行空間整備事業の概要について
- ② 自転車関連事故の状況について
- ③ 自転車通行環境の歴史的背景について
- ④ 自転車通行環境モデル地区の指定状況について
- ⑤ 自転車通行環境整備の取り組みについて
- ⑥ 自転車通行環境整備の課題について 等

〈2日目〉広島県福山市(鞆コミュニティセンター)

○調査項目

- ①鞆の浦の魅力と課題について
- ②鞆の浦の現状について
- ③まちづくりの経緯について
- ④町並みのデザインについて
- ⑤まちづくりの転機について
- ⑥まちづくりの助成制度について 等



▲レンタサイクルポート



▲鞆の浦の町並みを歩き、説明を受ける様子

観光・文化推進調査特別委員会

視察日・視察都市	視 察 事 項
1月28日 愛媛県松山市	・俳都松山宣言について
1月29日 愛媛県松山市	・松山市立子規記念博物館について

〈1日目〉愛媛県松山市(松山市役所)

○調査項目

- ①民間の俳句教室について
- ②行政の支援について
- ③俳句事業に係る予算について
- ④俳句に関わる教育について
- ⑤NPOの発展について
- ⑥グッズ販売について 等

〈2日目〉愛媛県松山市(松山市立子規記念博物館)

○調査項目

- ①博物館の現状と課題について
- ②指定管理者について
- ③英語俳句について
- ④大規模改修の実績について
- ⑤来館者数について
- ⑥予算について 等



▲愛媛県松山市での研修の様子



▲子規記念博物館での研修の様子

平成28年 区長の施政方針説明

(一部抜粋・要旨)

西川区長から、2月15日の2月会議初日の本会議において、施政方針説明が行われました。

私はこれまで、区民の皆様の幸福実感を高めるための区政運営に、一途に取り組んできました。

「荒川区民総幸福度」の研究と区政への活用、「子どもの貧困・社会排除問題」への対応や区立小中学校全校へのタブレットパソコンの配備、首都直下地震に備えた永久水利施設整備等、荒川区は、革新的かつ先進的な施策を実践してきました。

区政のあらゆる分野で区民の笑顔を1つでも多く増やしていこうとする施策は、議会と行政との共同作品として実現できたものです。

28年度予算案は、「ゆいの森あらかわ」の整備費や「俳句のまち・あらかわ」を区内外に発信する等の地域と区民が輝く予算として編成しました。

具体的には、危険性が高い老朽空き家の除却工事費用の全額助成事業、ごみの減量、資源の有効

活用の啓発、水素エネルギーを活用した燃料電池の実証試験の実施。また、都市公園内における保育園の整備、放課後子ども総合プランの本格実施、糖尿病版チャレンジャー事業、小規模事業者の設備投資支援等、全力を挙げて取り組みます。

本予算案は、荒川区民の幸福実感向上に向けて、早急な具体化が求められるもの、中長期的な取り組みとして遂行すべきもの、双方の視点から優先順位を付け、必要な事項を予算化したものです。

私は、今まで以上に、区民の思いを肌で感じ、区民の求めを具体化するために精一杯の努力を続けられるよう、職員と共に成長を重ね、職員の先頭に立って、笑顔溢れる荒川区を実現していく決意です。区議会並びに区民の皆様のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。



◀区長施政方針説明の様子

意見書提出

2月会議では意見書3件を可決しました。

ほう素、ふっ素等に係る暫定排水基準への対応に関する意見書

(内閣総理大臣・環境大臣・東京都知事あて)

平成28年度予算(公立学校施設整備費)に関する意見書

(内閣総理大臣・文部科学大臣あて)

地方公会計の整備促進に係る意見書

(衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・財務大臣・総務大臣あて)

採択した請願・陳情

趣旨採択

- ・保育料の現状維持を求める陳情
- ・公設公営の荒川区立幼稚園を守り発展させる事を求める陳情

請願・陳情とは

請願・陳情は、区政に関する意見や要望を、議会に対して文書で提出する制度です。

提出された請願・陳情の審査は、本会議で、関係の委員会に付託されます(※付託とは、審査を委託することです)。委員会で審査された結果、結論が出た請願・陳情は、本会議で議決を行います。

請願・陳情の内容について、議会として賛成できるものは「採択」、趣旨には賛成できるが、当分の間、具体的な実現は難しいと考えられるものは「趣旨採択」、賛成できないものは「不採択」とします。

賛成した内容は、区の仕事に生かすよう執行機関に伝えます。内容が、国や東京都等が行う仕事の場合は、意見書等を出すこともあります。議決の結果は請願・陳情者の代表の方にお知らせしています。

○2月会議で決議についての議案が可決されました。内容は以下の通りです。

北朝鮮の弾道ミサイル発射に対する抗議決議

北朝鮮は、2月7日、人工衛星と称して事実上の弾道ミサイルを発射した。1月6日の核実験に続く今回の北朝鮮の行動は、核兵器の開発と不可分に結びついた軍事行動であり、国際の平和と安全に深刻な脅威を及ぼす行為である。「弾道ミサイル技術を利用したいかなる発射」も行わないことを求めた国連安保理決議に違反するとともに、6か国協議の共同声明、日朝平壤宣言に違反する暴挙である。

よって、荒川区議会は、北朝鮮に対し、厳重に抗議するとともに、北朝鮮が核兵器の開発を含め、あらゆる軍事的な挑発行為を放棄することを強く求める。

以上、決議する。

平成28年3月15日

荒川区議会

東京都知事に対し東京女子医科大学東医療センターの足立区移転計画に係る都有地売却を行わないよう求める決議

東京女子医科大学と足立区は、平成27年4月28日に「東京女子医科大学東医療センター移転に関する覚書」を締結し、東京女子医科大学東医療センターの移転計画を進めています。

東京女子医科大学東医療センターは、これまで80年にわたり、この地域の医療を担ってきており、地域に根差し、多くの荒川区民が利用する医療施設です。これまで、建て替えや新棟の建設、それによる病床の増加等、荒川区としては、最大限の協力を行ってきたという経緯もあります。

東京女子医科大学東医療センターは、東京女子医科大学の理解と了解のもと指定されている荒川区区内唯一の災害時の拠点病院です。区は、同センターが現存することを前提として、大災害時緊急医療救護体制を整備しました。近隣商店街などをはじめとする区内経済悪化への懸念と合わせて、大災害時の救護体制という命の問題に区民は大きな不安を感じています。

このことから荒川区議会では、平成27年2月に東京女子医科大学東医療センターが足立区へ移転することに反対する決議を議決し、移転の検討を直ちに中止し、荒川区及び荒川区議会と誠意をもって話し合うよう強く求めてきました。

一方、足立区では、東京女子医科大学東医療センターの誘致及び当該施設の整備を目的とした「足立区大学病院施設等整備基金」を設置し、平成27年度の補正予算で60億円を積み立てる内容の条例案等が提出されたところです。さらに、移転先の候補地は日暮里・舎人ライナーの江北駅付近の足立区江北四丁目にある都有地が有力候補であり、その候補地を平成28年度中にも選定するとのことでもあります。

病床数500近い東京女子医科大学東医療センターの移転は、21万1千人を超える荒川区民の日常の医療を脅かすことのみならず、区内経済の悪化、災害時の区の医療救護体制を崩壊させるものです。

よって、荒川区議会は、舛添要一都知事に対し、病院の移転により多大な損害と甚大な影響を受ける荒川区の立場に配慮し、事実上移転を認識した上での都有地売却を行わないよう強く求めるものがあります。

以上、決議する。

平成28年3月15日

荒川区議会

28年度予算を可決

平成28年度一般会計予算ほか3特別会計予算は、「予算に関する特別委員会」（議長を除く全議員で構成・委員長＝北城貞治、副委員長＝安部キヨ子）を設置し、2月25日から3月8日まで審査を行い、いずれも可決されました。

主な総括質疑

自民党 並木 一元 委員

- ・「危険老朽空き家ゼロ作戦」の進捗状況と今後の進め方について
- ・治安ナンバーワンに向けた積極的な事業展開の効果と課題について
- ・自転車盗難の対策を始めとする治安対策の推進について
- ・防犯カメラの効果的的配置について

自民党 中島 義夫 委員

- ・ハザードマップの更新と区民参加のマップ作成について
- ・学校、下田、清里のトイレの温水洗浄便座の導入について
- ・小規模事業者支援事業の実績と事業の周知について

共産党 斉藤 邦子 委員

- ・認可保育園の一次審査後の不承諾者数の状況について
- ・高齢者の住まい安定確保と空き家活用について
- ・国民健康保険料の値上げと東京都国民健康保険調整交付金の交付基準について

公明党 森本 達夫 委員

- ・道路下の空洞の危険性と空洞調査の実施について



▲委員長挨拶の様子

- ・「ゆいの森あらかわ」の乳幼児、保護者に特化した二次避難所としての機能について
- ・「ゆいの森あらかわ」開館に向けたプレイベント等の実施について

民主・市民 竹内 明浩 委員

- ・中学校防災部の活動状況と活動ガイドライン並びに卒業後のOB・OGへの対応について
- ・ハザードマップの更新と浸水深の表示について

元気クラブ 斉藤 裕子 委員

- ・（仮称）日暮里地域活性化施設の目的と東尾久本町通りのふれあい館建設の進捗状況

日本創新党 小坂 英二 委員

- ・人口増の約4割が外国人の荒川区、流入規制へ負担金導入を。人口密度3位で過密な荒川区

改革の会 藤澤 志光 委員

- ・ウォーキングを取り入れた区民の健康づくりの仕組みについて

維新の党 町田 高 委員

- ・保育行政の地方分権推進について

会派の名称変更

28年4月1日付で「民主党・市民の会」の会派名が「民進党・市民の会」に変更となりました。

平成28年度予算をこう評価する

3月15日の本会議において、平成28年度一般会計予算について各会派から討論が行われました。その要旨をお知らせします。

賛成

重点施策等を推進していくための新規事業やレベルアップ事業が組み入れられており高く評価

自 民 党

自由民主党荒川区議会議員団は、本予算の編成に当たり、区民生活の向上、安心・安全に暮らせる荒川区を目指し、9つの重点項目を始めとした、約300の事項を積極的に推進していくよう要望した。この要望を踏まえ、区は、重要課題や区民生活に的確に対応した施策に財源を重点的かつ効果的に配分する一方、内部努力の更なる徹底や事務事業全般にわたる再点検・見直しを図っている。今後の行政需要に対応するため、抑制できるものは可能な限り抑制する一方、我が党が要望した重点施策等を推進するための新規事業やレベルアップ事業が積極的に組み入れられた予算編成に当たっての区長及び区当局の努力を高く評価する。

主な施策について述べると、不燃化特区の小規模な用地の防災スポットとしての整備、「ゆいの森あらかわ」開設準備、リサイクルセンターの開設、国家戦略特区を活用した公園内保育園の整備、放課後子ども総合プランの本格実施、学校図書館の更なる活用、認知症の正しい理解の普及と早期発見・診断・治療の体制作り、設備投資等に対する補助金や経営指導による荒川区小規模事業者経営力強化支援事業である。

これらの他にも、各分野の施策や事務事業を具体的に確認した。主なものは、自転車盗難防止対策の強化、振り込め詐欺対策の強化、消防団への支援の充実、清里施設の高地トレーニング等への活用、千住大橋南詰周辺への「矢立初めの地」の表示、小中学生の駅伝大会の実施、生活保護受給者へのジェネリック医薬品の更なる推奨、子どもの歯科検診の充実、あらかわ遊園と都電を活用した観光の振興、富士見坂の観光資源としての活用、学校トイレの洋式化の促進と財源確保への働きか

け等々である。

新年度の予算執行に当たっては、地域と区民が輝くために、一層努力することを強く要望し、自由民主党荒川区議会議員団も、執行機関との良き緊張関係を保ちつつ、今後とも力強く西川区政を支えていくことを表明して、賛成の討論とする。



▲矢立初めの地の「千住大橋」

賛成

限りある財源を重点的・効果的に配分した予算を評価。区民生活の向上に一層努力するよう要望

公 明 党

平成28年度予算は、「幸福実感都市あらかわ」の実現に向け、介護予防の強化や子育て環境の整備、防災・減災対策の推進等、区民の安全・安心はもとより、地域力の強化や連携、文化や経済の活性化等に着実に取り組むことで、「地域と区民が輝く予算」として編成された。予算編成に先立って我が党が提出した要望書を踏まえ、限りある財源を重点的・効果的に配分したものと受け止めている。主な事項として、糖尿病版チャレンジャー事業の創設、地域包括ケアシステムの構築、認知症予防対策の充実、荒川もったいない大作戦の実施、全ての区立公園への防犯カメラの設置等が予算化されており、我が党の主張が幅広く取り入れられていることを評価する。また、予算特別委員会では水害を想定した垂直避難訓練の実施、図書館窓口でのレファレンスサービスの充実、新公会計制度導入と公共施設等総合管理計画等との連携、子どもの居場所づくり活動団体への支援充実、西

日暮里駅前再開発に区民や議員等の意見が反映できる検討委員会の設置、防災部卒業後も地域に貢献できる体制構築等、様々な要望や改善を求めた。

最後に、我が党からの提案・要望を事務執行や予算編成に十分に反映させ、区民生活の向上に一層努力するよう要望し、賛成討論とする。



▲あらかわ遊園運動場周辺の防犯カメラ

反対

増税と負担増から暮らし守る防波堤の役割が不十分。区民生活応援に思い切った予算配分を求め反対

共産党

一般会計予算に反対する。「家財片付け特約付き火災保険」への助成、保育士等の住宅確保支援、時間延長学童クラブの拡大等、子どもが要望してきた事項の実施は評価する。しかし、区民生活の底上げ・応援、子育て支援策、安心して住み続けられる荒川区の視点からは不十分である。反対の第一に、待機児童対策が不十分である。子どもの居場所づくりの安定した場所の提供を求める。少人数学級や義務教育の公費負担拡大、給付制奨学金等を優先すべきである。第二に、特養ホーム・小規模特養建設やサービス付き高齢者住宅の具体化がないことは問題である。介護保険だけでは不十分で、区としての計画が必要だ。また、空き家の活用対策も検討すべきであり、高齢者の住宅確保、住宅マスタープランの見直し等を求める。次に、具体的に述べると、不燃化特区の取り組み、従前居住者向け公的住宅の確保が必要である。補助92号線の促進は都に断念させるべきだ。住民合意での東尾久地域のふれあい館の建設を求める。生活保護者が賃貸契約の際に必要な保険加入を支援すべきだ。教育に係る費用無償化や福祉の充実を優先して財源を投入することこそが自治体の仕

事である。最後に憲法の平和主義、原発ゼロを地方自治体から発信することを表明して討論とする。



▲特別養護老人ホーム「グリーンハイム荒川」

賛成

あらゆる分野で東日本大震災の被災地への支援を追求すること、区民との更なる協働を要望

民主・市民

本予算は、地域と区民が輝く予算として、「ゆいの森あらかわ」の整備費や私立保育園運営費等を主な増加要因として、過去最大規模となっている。

区は、将来の財政負担を十分に考慮した上で、基金や起債を積極的に財源に活用する等、中長期的な視点に立った財政運営を行う方針を掲げたが、増加する行政需要に対応する区政運営を希望する。健康・福祉分野は、糖尿病重症化予防、高齢者見守り、介護予防事業を更に充実させることを求める。子育て・教育分野は、子どもの貧困への更なる対応を求める。産業観光分野は、日暮里地域活性化施設が産業振興と賑わいの創出に資するよう期待する。環境分野は、リサイクルセンターの開設ともったいない大作戦に期待する。防災分野は、燃えない街づくりへの努力を評価する。

最後に、あらゆる分野で、東日本大震災の被災地への支援を追求すること、区と区民との協働を更に進めることを要望し、賛成討論とする。



▲ころぼん体操の様子

反対

地域社会を支えた層の復活支援を
西日暮里再開発は手法を改めよ
元気クラブ

汐入や日暮里への人口流入で一見活気を呈しているかに見える荒川区だが、子どもの貧困、奨学金を返せない若者、「下流老人」等を直視すべき。

吉村昭文学館は生誕地・日暮里に移転を。介護保険は税で賄う制度への転換を国に進言せよ。アベノミクスはトリクルダウンしない。中小企業支援強化、滞在型商店街を。地域福祉を担う団体に自由度の高い予算増額を。西川区政6年間の普通建設事業費632億円のうち再開発事業への補助金は実に172億円。ゼネコンと住販会社は荒川区を舞台に利益を得た。マイナス金利で不動産投資が過熱し、駅前再開発も投資対象になる。国民の税を投入する再開発が投資目的に利用されては主旨が違ふ。西日暮里再開発は住宅建設をやめよ。



▲日暮里駅前の再開発

反対

タブレットパソコン1万台ばら撒き、朝鮮学校への補助等に加え大局観に欠けた予算に反対

日本創新党

防災対策の強化等、評価できる点があるものの、一般会計予算に反対する最大の理由は、学校教育全体を道具頼りで自律性のない方向に劣化させるタブレットパソコンの予算が計上されていることである。議会費は、定数削減や議長、副議長の高額報酬の引き下げ等の改善が進んでいない。朝鮮学校が9割を占める外国人学校保護者補助金を廃絶しない区の本質から目を逸らし続けた姿勢も反対の大きな理由の一つである。

基礎的自治体の政策決定は、国益を常に考え、歴史の縦軸の中で何を引き継ぐべきかという大局観を持たなければならない。国あつての地域であり、地域あつての国である。その点が蔑ろにされた予算である以上、反対討論とする。



▲小・中学校に導入されているタブレットパソコン

賛成

区政の重要課題に積極的に取り組んだ編成になっていると高く評価
維新の党

平成28年度予算は、過去最大規模の積極型予算となっている。歳入総額は、一般財源が597億6100万円、一般財源比率61.6%と十分、行政需要に柔軟に対応できる数字であると評価する。歳出について、子育て施策は、国家戦略特区を活用した都立公園内への私立保育園の整備や区立宮前公園内認可保育園の整備を高く評価する。子どもの貧困対策において、「子どもの居場所づくり事業」は重要であると考え。児童虐待対策では、「養育支援訪問事業」と「安心子育て訪問事業」が虐待を未然に防ぐ有効な手段と考える。また、児童相談所設置の体制作りを要望する。本予算は、区政の重要課題に積極的に取り組んだ編成になっていると高く評価し、賛成討論とする。



▲都立汐入公園内の私立保育園整備予定地

荒川区議会では本会議開催中や委員会開催中でも行政視察を受けています



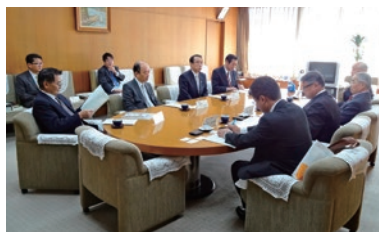
斎藤泰紀 議長 保坂正仁 副議長

12～2月の間、20団体の行政視察の受け入れがありました。

月 日	視察受入議会名	視察項目
12月23日	 大韓民国済州市	表敬訪問
1月13日	 青森県黒石市議会	荒川区民総幸福度について
13日	 兵庫県西宮市議会	南千住ふれあい館について
14日	 宮城県仙台市議会	汐入公園内保育所建設について
19日	 高知県高知市議会	児童虐待対策について ほか
20日	 愛知県岡崎市議会	タブレットを活用した学校教育について ほか
21日	 大阪府豊中市議会	視察受け入れの方策について
22日	 東京都足立区議会	通年議会制について
25日	 沖縄県うるま市議会	子どもの貧困対策について
27日	 埼玉県入間市議会	介護予防強化推進事業について
28日	 東京都板橋区議会	介護保険における新しい総合支援事業について
29日	 愛知県名古屋市会	MACCプロジェクトについて
2月 2日	 愛媛県新居浜市議会	環境配慮率先プランについて
2日	 愛知県豊明市議会	学校パワーアップ事業について ほか
9日	 愛媛県松山市議会	小中学校の学校図書館司書配置等について
9日	 東京都町田市議会	子どもの貧困対策について
12日	 静岡県静岡市議会	がん予防出前授業について
16日	 京都府城陽市議会	学校図書館を活用した学力向上の取り組みについて
16日	 大分県日田市議会	通年議会制について
23日	 東京都杉並区議会	「ゆいの森あらかわ」の概要について ほか



▲通年議会制について視察中の足立区議会 様



▲通年議会制について視察中の大分県日田市議会 様



▲学校図書館司書配置について視察中の愛媛県松山市議会 様



▲「ゆいの森あらかわ」について視察中の杉並区議会 様